

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人等生会 多機能型児童デイかくれんぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32 (28家庭)	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年2月28日		～ 令和7年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々なレクリエーションプログラムを組んで実施している	同じ曜日で同じレクリエーションを実施することにならないように予定を組んでいます。特におやつレクでは、児童本人が調理に取り組むことで好き嫌いの克服や食の幅を広げることにつながっています。	おもちゃのお金を使って金銭について考える機会を作ることやコミュニケーションに関するプログラムを通して生活面の自立を促していきます。
2	外出レクリエーションを定期的に企画している	公園やショッピングモール、科学館などに月1～2回程度外出しています。行き先によっては公共交通機関を利用し、公共の場でのルールやマナーを身につけることに取り組んでいます。	公共交通機関の利用に慣れてほしいという保護者様からの希望が増えていることから、今後市内の外出を中心に公共交通機関の利用回数を増やすことを検討していきます。
3	法人で毎月第三土曜日に地域貢献・地域交流としてマルシェを開催している	マルシェ開催日は必ず当日利用児童全員が参加し、ミニゲームを楽しんでいます。また、地域の方との交流も図っています。児童の特性に合わせて、実際に運営側に立ち、社会経験を積んでもらっているお子様もいらっしゃいます。	利用児童同士だけでなく地域の他のお子様も交えた企画を充実させることで、交流の機会に出来ればと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男児のトイレ、着替え等の介助が女性職員による介助になってしまう	男性職員が少ないことで同性介助が難しいため	・男性職員の募集を検討していきます。 ・女性職員が介助する際は他者に聞こえないように確認する等プライバシーへの配慮を続けていきます。
2	きょうだい同士の交流・支援の機会の周知が十分ではない	現状花火イベントや果物狩りなど、きょうだいにも参加して頂けるイベントを年に数回実施しているが、参加費がかかることや開催日時によって参加者が限られてしまう	・参加費の負担が無いあるいは少ないイベントを考えていきます。 ・きょうだいも参加しやすいように土日や長期休暇での開催を増やしていくことを検討します。
3	ペアレントトレーニングや家族支援プログラムの本格的な実施・情報提供が出来ていない	個別の相談には迅速に対応するように心がけていますが、ペアレントトレーニングという形式で本格的に実施することが出来ていません。	・まずは保護者同士の交流を増やしてつながりを強化することから取り組んでいきたいです。 ・ペアレントトレーニングに関する研修を職員が受けた際は内容を保護者様にも発信していけたらと思います。